

様々な感染経路

- 水・食べ物

- 蚊やダニ

- 動物との接触

- 性交渉

- 淡水との接触



蚊が媒介する感染症

- デング熱
- マラリア
- 日本脳炎

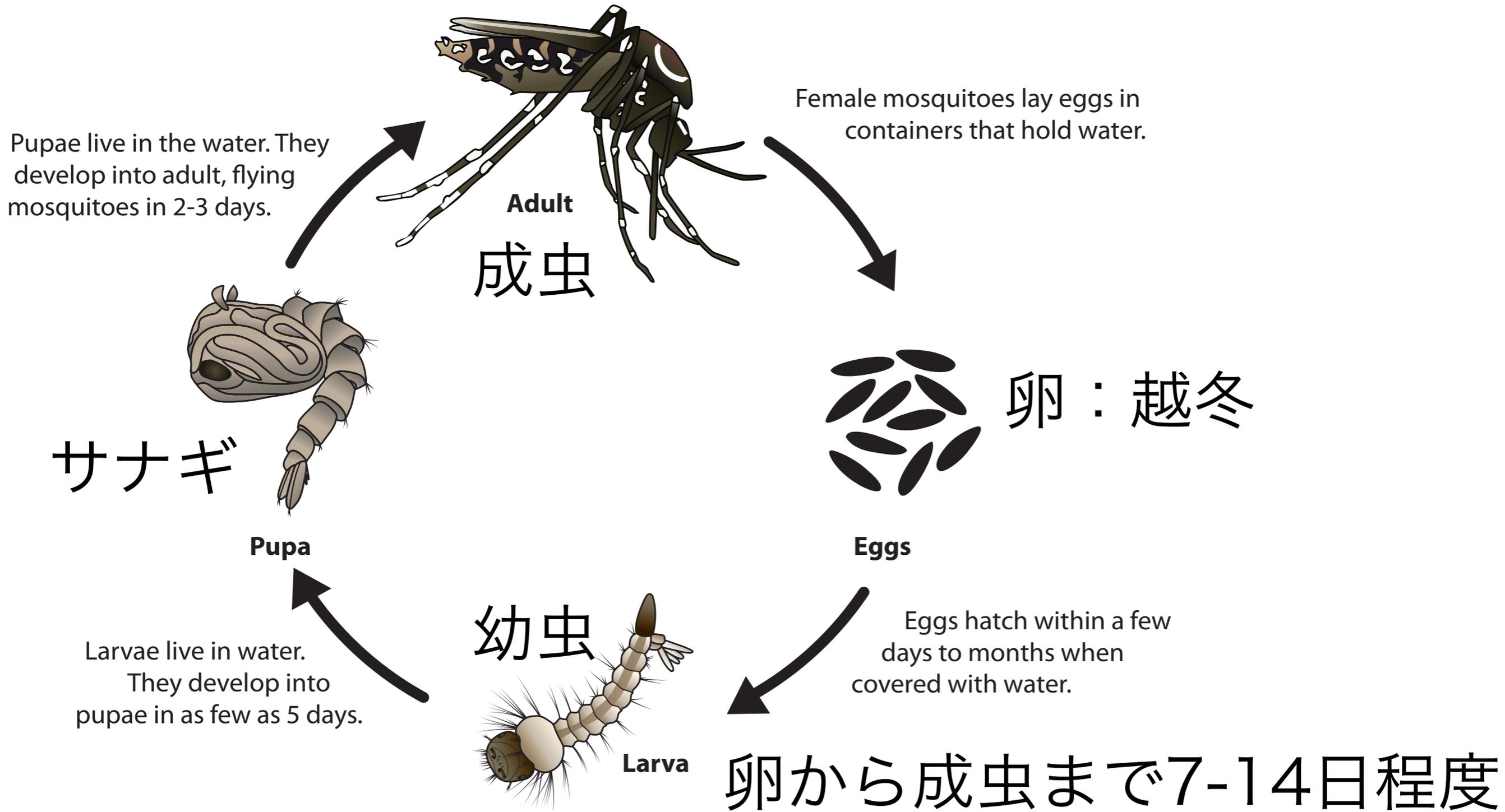


デング熱

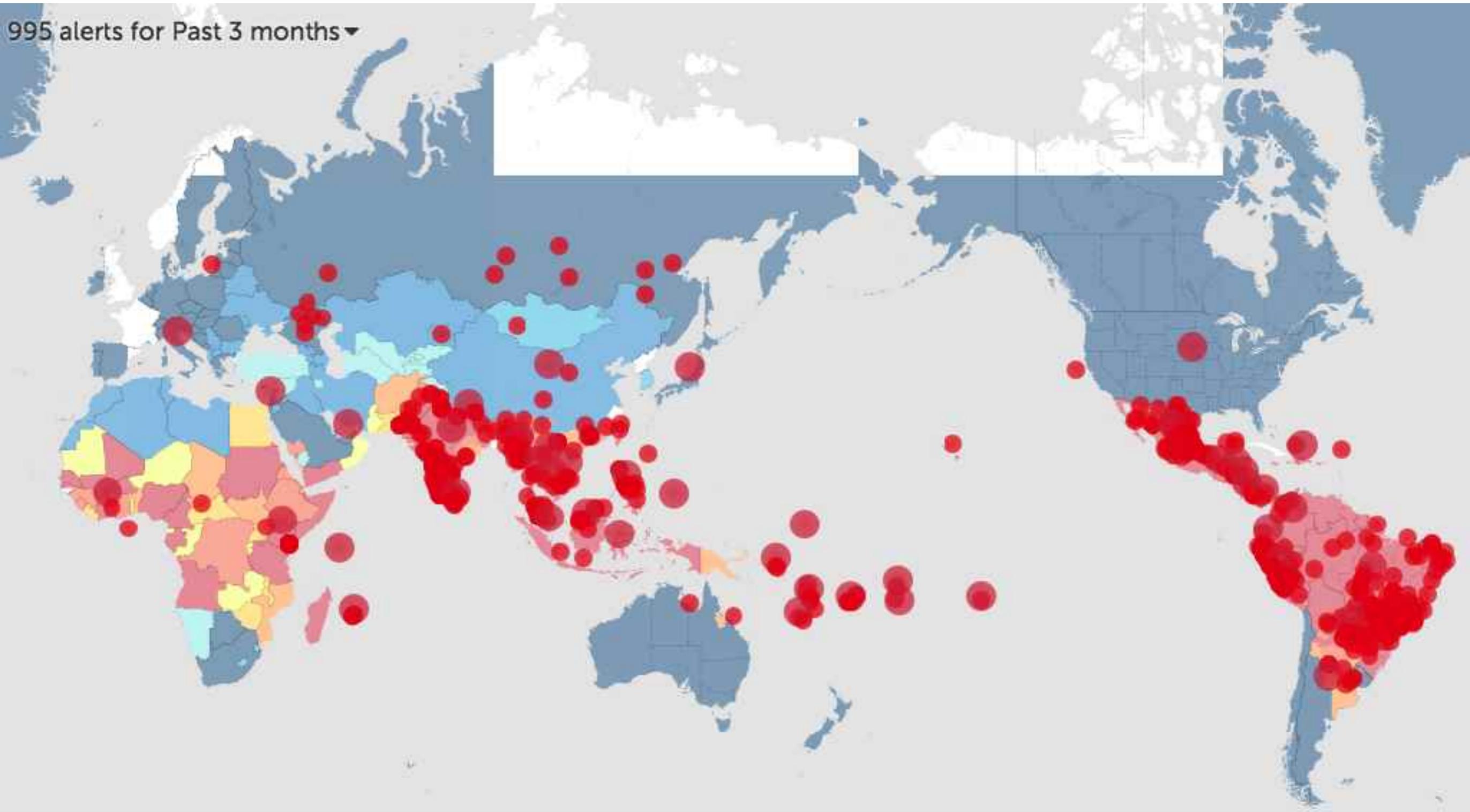
- 蚊にさされて感染するウイルスによる疾患
- インフルエンザのような症状
(発熱、頭痛、関節痛)
- 重症の場合、腹痛・嘔吐などの腹部症状
- 2回目以降の感染で、出血熱を起こす可能性



蚊のライフサイクル



デング熱の流行地域

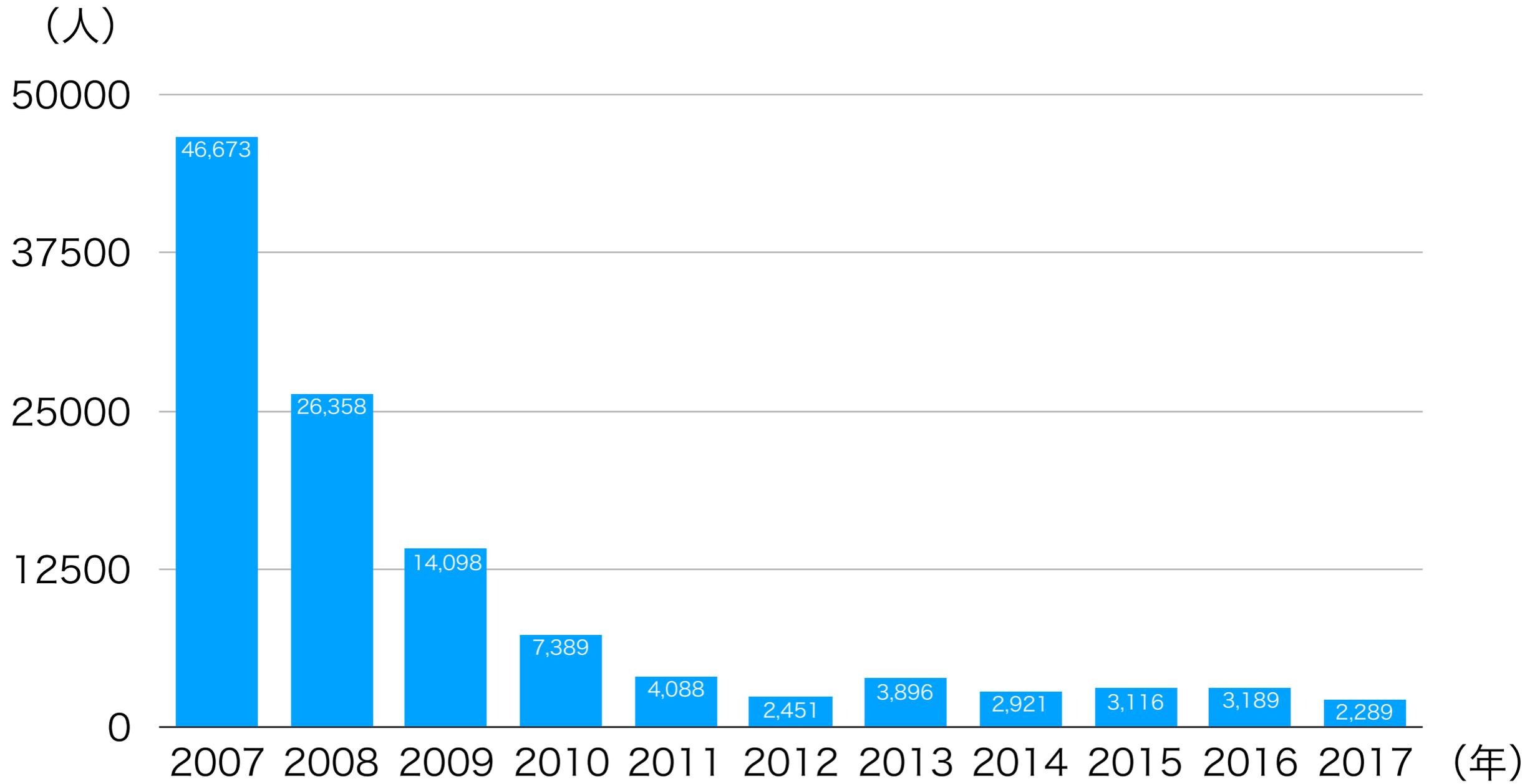


マラリア

- 世界三大感染症のうちの一つ
- 赤血球に寄生する寄生虫疾患
- 予防薬はあるが、効果は100%ではない
- 予防のワクチンはない



中国でのマラリア発生数





Low to no risk
 antimalarials not usually advised

High risk
 antimalarials usually advised

Surrounding countries with malaria risk

海南島



Low to no risk
 antimalarials not usually advised

Surrounding countries with malaria risk

This map is only intended as a guide and is not exact. The map must always be used in conjunction with the malaria advice next. Bite avoidance measures should be taken in all areas.

Click on an icon below for additional country information

Regional Information 
 Major Airports 
 Major Railways 

日本脳炎

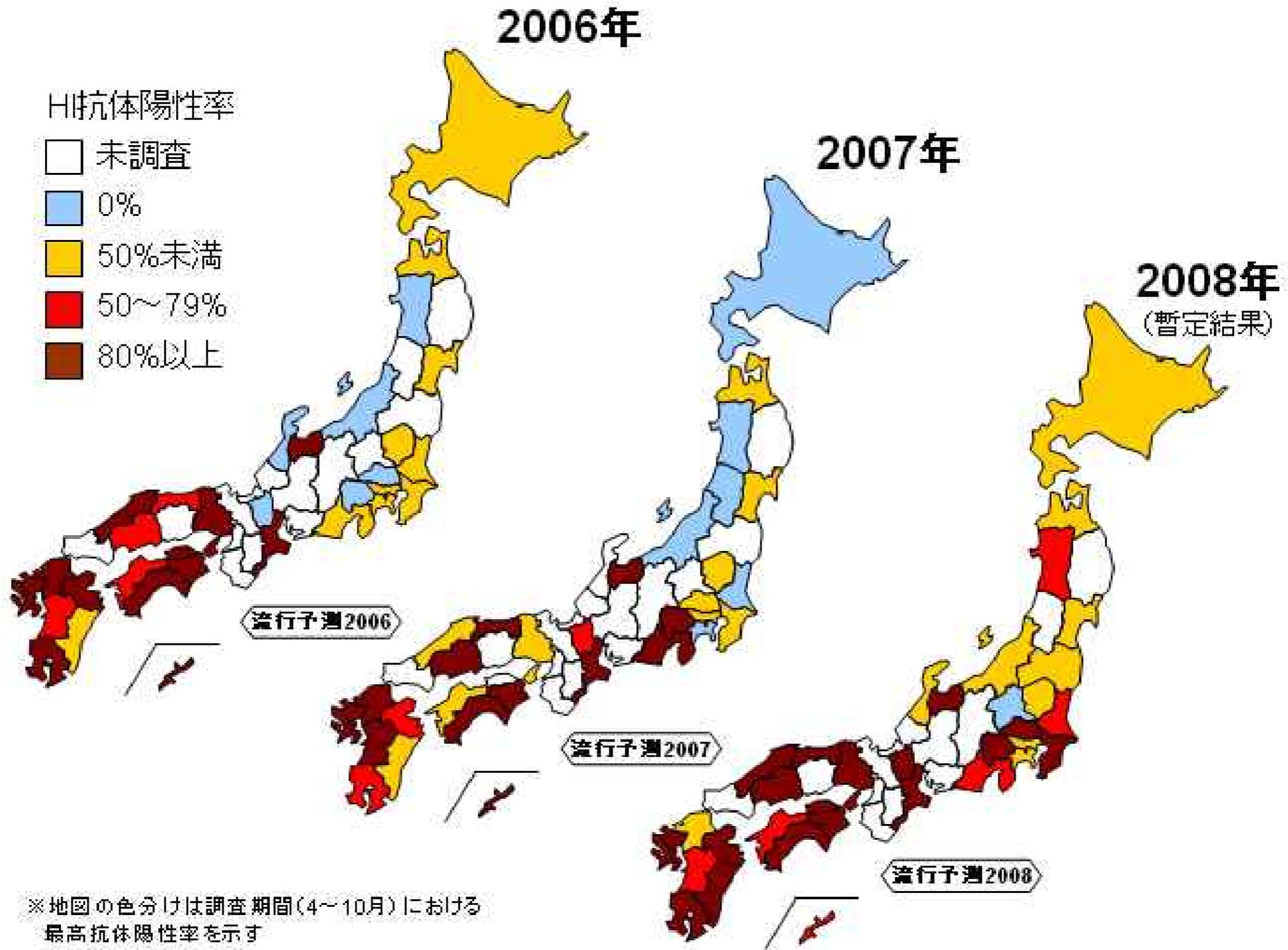
- 日本で研究されてきた、東南アジアの疾患
- ブタが保有するウイルス→蚊が媒介
- 予防にはワクチンが重要

図1. 日本脳炎患者発生状況の推移, 1946~2008年
 (1946~1964年伝染病統計、1965~1998年伝染病流行予測調査、
 1999~2008年感染症発生動向調査)



Infectious Agents Surveillance Report

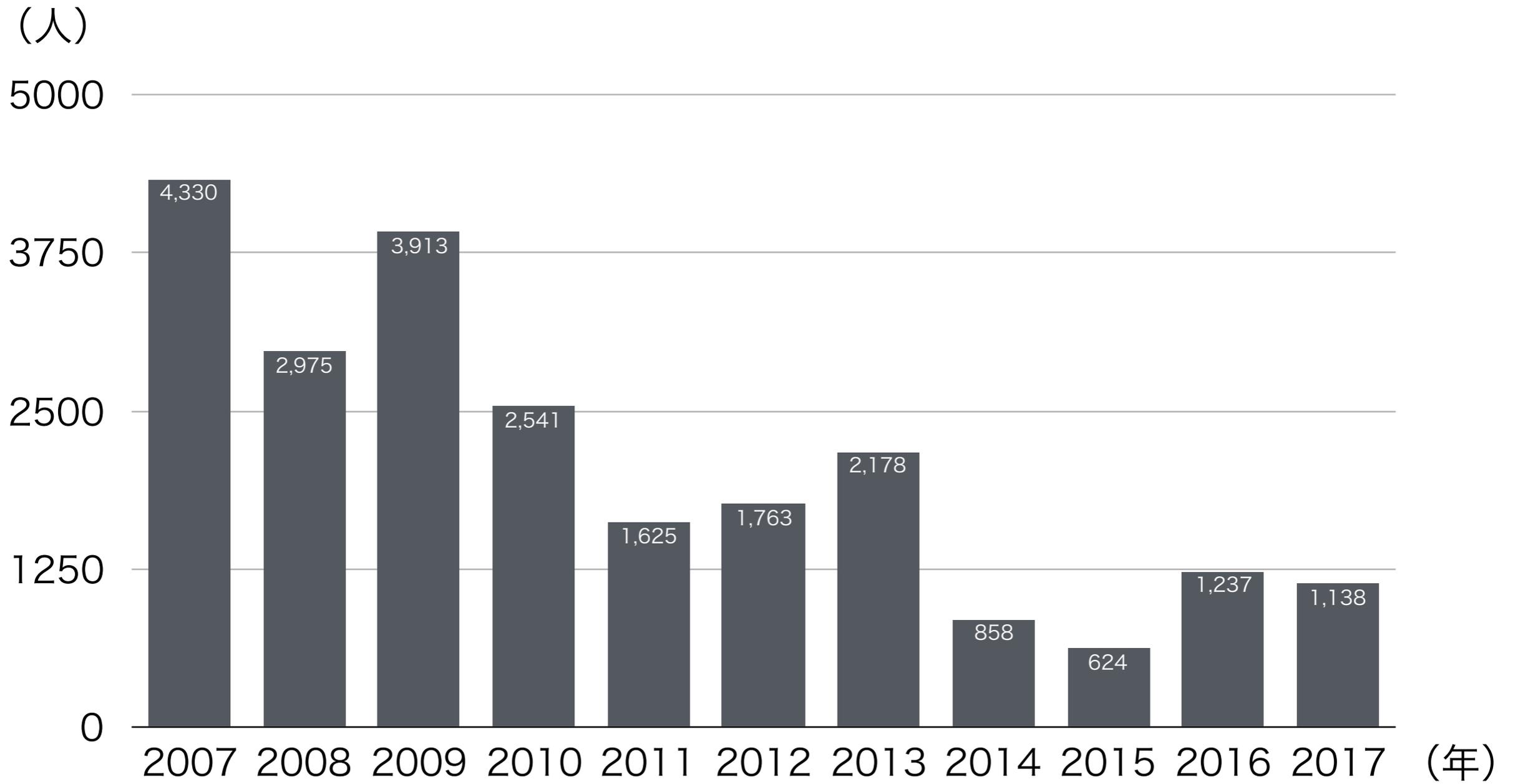
図2. 2006～2008年におけるブタの日本脳炎抗体保有状況



IASR

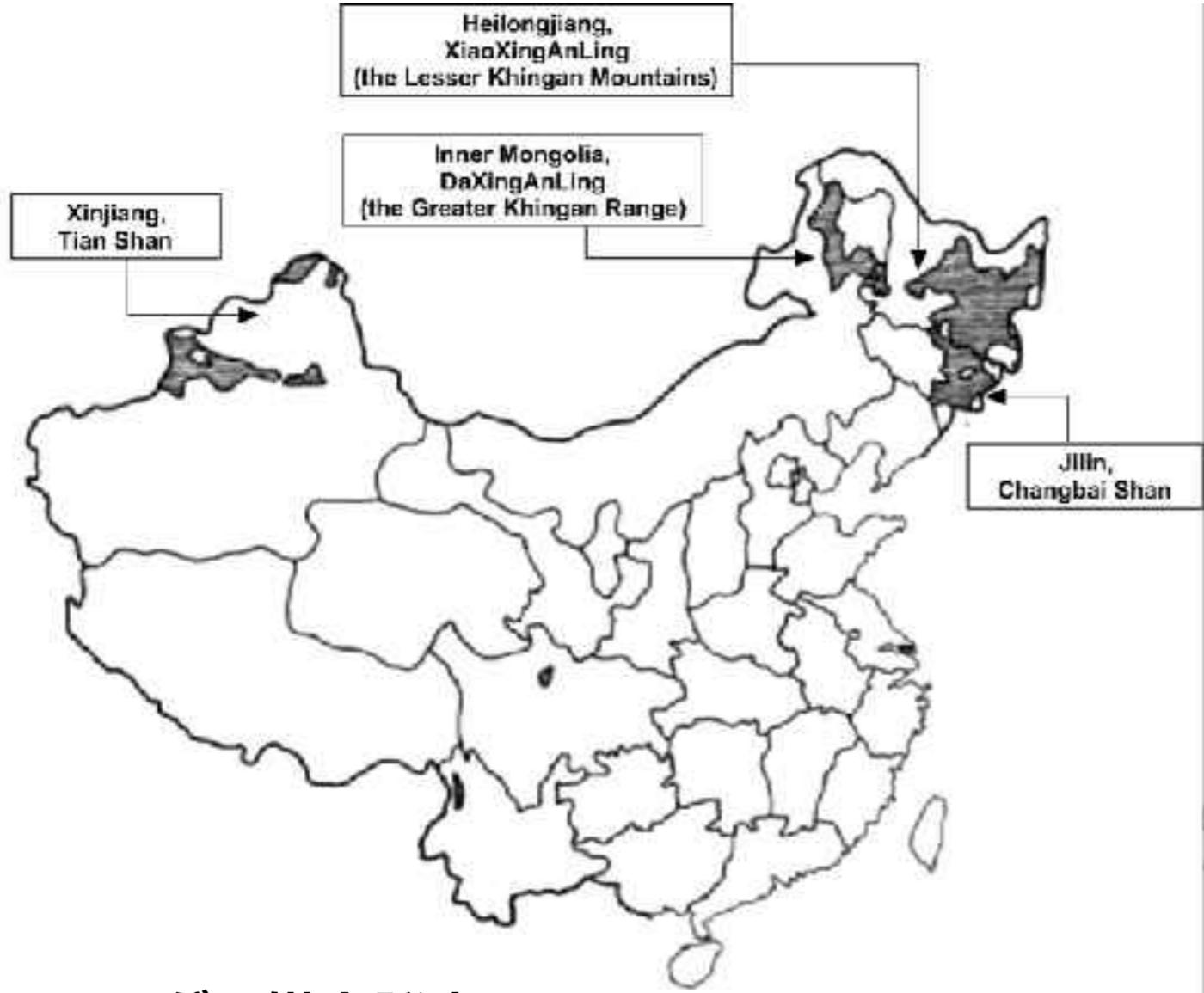
Infectious Agents Surveillance Report

中国での日本脳炎発生数



ダニが媒介する疾患

- リケッチア症
- ライム病
- ダニ媒介脳炎
- SFTS（重症熱性血小板減少症）



ダニ媒介脳炎 Vaccine 2017;35(9):1227

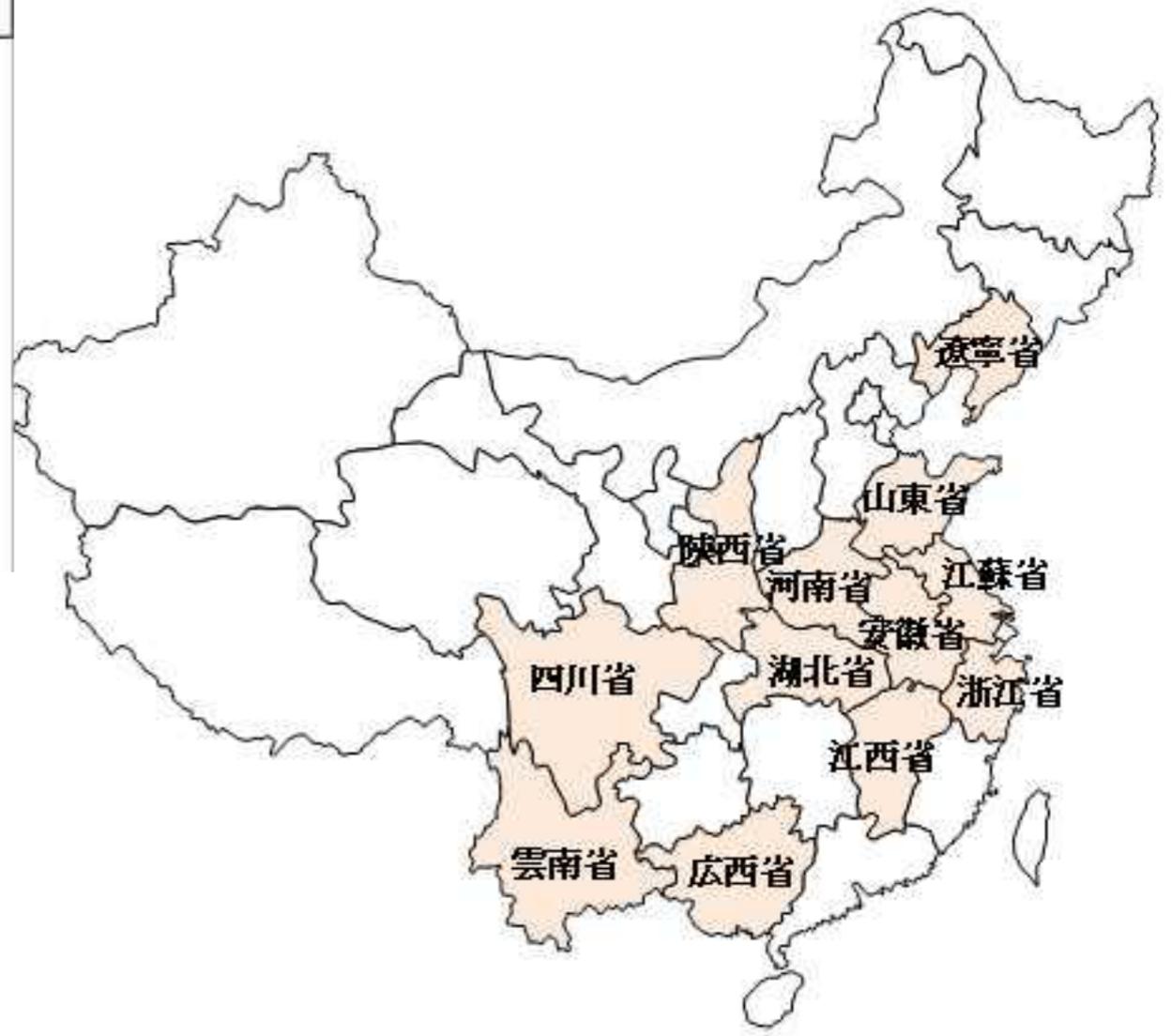


図1. 2011年の中国におけるSFTS患者の分布



防虫対策

- 昆虫忌避薬（DEETなど）
- 長袖・長ズボンなど
- 寝るときは蚊帳
- 活動性が高い場所・時間帯を避ける



昆虫忌避薬 (DEET)

- 濃度は持続時間と関係
30%製剤→5-6時間、12%製剤→2-3時間
- 効果のある虫
蚊、ブユ、アブ、ノミ、イエダニ、マダニ、
サシバエ、トコジラミ (ナンキンムシ)、ツツガムシ



昆虫忌避薬 (DEET)

- 「石油」系、皮膚炎を起こす可能性
- 小児には使いにくい
30%製剤は12歳以上から
- 12%製剤を使用する場合
6ヶ月未満の乳児・・・使用できない
6ヶ月-2歳・・・1日1回
2-12歳・・・1日1-3回



昆虫忌避薬(イカリジン)

- 5%イカリジンと10%DEETはほぼ同じ効果
- 「蚊、ブユ、アブ、マダニ」の予防に
- お肌にやさしい



ヤブカとハマダラカ



都市部に多い
日中活動



田舎に多い
夜明け・夕暮れに活動